

# 第1学年 社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 令和3年11月12日(金)第5校時

## 1 単元名 オセアニア州（世界の諸地域）

## 2 生徒の実態と本単元の意図

### (1)教材観

本単元は学習指導要領地理的分野の内容B世界の様々な地域(2)世界の諸地域について扱う。世界の諸地域では①アジア②ヨーロッパ③アフリカ④北アメリカ⑤南アメリカ⑥オセアニアの各州について取り上げるが、本単元では⑥オセアニア州について強まるアジアとの結びつきと多文化社会の構築という視点で理解を深め「多様な人々が共存し、それぞれの文化を尊重するために必要なことは何か」という主題を設定して学びを深めていく。

オセアニア州はオーストラリア大陸と太平洋に広がる島々として構成されている。多様な観光資源を有し、世界各地の人々が訪れる。オーストラリアは農業が盛んであったり、鉱産資源が豊富に採掘できたりする利点を生かし、近隣諸国に盛んに輸出している。地理的に近いアジア諸国との経済的結びつきが強く、日本や中国との貿易は盛んである。

オセアニア州の国々の多くは、先住民（オーストラリアのアボリジニ、ニュージーランドのマオリなど）が伝統的な文化を守りながら生活を送ってきた。ところが、18世紀から20世紀にかけてオセアニア州の国々の多くが欧米諸国の植民地となり、欧米諸国の文化が根付いていく。特にイギリスの植民地であったオーストラリアは、イギリスからの移民が国づくりを担ったために、イギリス文化が根付いてきた。しかし、19世紀のゴールドラッシュにより、中国系の移民が増加すると白豪主義と呼ばれるアジア系移民排斥政策がとられた。1970年代になると、労働力確保の観点から政策転換がなされ、ヨーロッパ系移民以外の移民を積極的に受け入れるようになる。近年では先住民の権利も尊重され、多様な人々が共存し、お互いの文化を尊重する多文化社会の構築を目指している。

多様な人々を受け入れるために、「違いを受け入れる」社会の仕組みや人々の考え方の変化に着目させることで、SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」にも通じる地球的課題の要因や影響、具体的な解決への道筋を多面的・多角的に考察させたい。

### (2)生徒観

本学級では、授業、休み時間、清掃、給食などあらゆる場面で、コミュニケーションが活発に行われ、助け合いながら生活する場面が多く見受けられる。授業では、互いの意見や考えの違いに寛容な生徒が多く、安心して発言できる雰囲気があるため、多くの授業で活発な挙手・発言が行われる。埼玉県学力・学習状況調査（以下「県学調」）の結果からも、人的リソース方略の数値が高い生徒が多く、周囲の生徒と協力、助け合いながら学習を進められる生徒が多いことが分かっている。

一方で、県学調の結果からは課題が読み取れる。努力調整方略の数値が低い生徒が多く、感情をコントロールして、あきらめずに継続して学習することが課題である。特に、自己効力感が低い生徒が多く、数学に対する学習意欲が低い生徒が比較的多いことが分かっている。

社会科の授業における生徒の実態についても上記の傾向がよく表れている。課題解決に向けた話し合い活動では盛んに意見交換がなされ、他者と協働して建設的な議論が行われる。一方で、「個→集団→個」の流れにおいて、個で深めなくてはならない場面で考えることを簡単にあきらめる生徒が少なくない。閉じられた質問 (Yes or No) よりも、開かれた質問をぶつけたときの方が、この傾向が顕著である。地球的課題に対しては、決まった正答は存在せず、多様な見方・考え方で柔軟に向き合うことが求められる。

上記を踏まえ、単元を通じて生徒が粘り強く学習に取り組めるよう留意したい。

### (3) 指導観

オセアニア州の地域的特色を大観し理解させることで、オセアニア州で顕在化している地球的課題とその要因や影響、具体的な解決への道のりを多面的・多角的に考察させることを重視する。そのためにオセアニア州の人々の暮らしに影響を与えているものを文化、歴史、産業、経済など多面的に捉え、地域的特色を大観させる。また、既習のヨーロッパ州における「統合による変化」という主題と対比させることで、「多様な人々が共存し、それぞれの文化を尊重するために必要なことは何か」というオセアニア州の主題が、単にオセアニア州という地域に限定されるものではなく、地球的課題であることに気付かせることを意識する。特にオーストラリアにおいて、多文化社会実現に向けた課題がどのように顕在化し、その課題とどのように向き合っているのかを地域的特色を踏まえて考察させたい。

また、SDGs との関連を意識させ、持続可能な社会づくりを考える上で日本にとっても無関係な内容ではないことを意識させたい。社会の授業では日頃より ESD (Education for Sustainable Development) の視点で生徒を育成している。特に、3年間の社会科学習を通して「持続可能な社会の創り手」になることを生徒に意識づけして日々の授業を実践している。本校で実践している NIE (Newspaper In Education) は SDGs との親和性が高く、持続可能な社会の実現に向けた地球的課題を、身近な社会と結びつけて考えることが可能になる。社会の授業で毎時間実践している新聞スピーチ「社会の窓 (つなげる NIE!)」で、SDGs の視点で身近な社会問題を捉える訓練をしている。

以上を踏まえ、本単元の主題「多様な人々が共存し、それぞれの文化を尊重するために必要なことは何か」について、他地域との関連、日本との関連、身近な社会との関連、SDGs との関連などを意識させ、多面的・多角的に考察させたい。

## 3 研究主題との関わり

研究主題「社会で活躍する人財の育成 ～NIEを軸としたカリキュラム・マネジメント～」 研究仮説 教育活動を、NIEを軸としたカリキュラム・マネジメントの視点で展開することで、生徒が社会で活躍できるための力を身に付けることができる
---

社会で活躍できるための力は様々な教科・教育活動で身に付ける多面的・多角的な能力である。社会科においては、持続可能な社会の創り手として、よりよい社会を築くために必要な資質・能力の育成を目指す。授業にNIEの視点を取り入れることで、身近な社会と関連付けて多面的・多角的に社会を捉え、考察していくことで、自分事として諸問題に向き合える生徒を育む。

#### 4 アクティブ・ラーニングの視点を生かした授業改善の手立て

生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたかを重視して、授業改善を図り、深い学びにつなげたい。そのために、重視したい項目について、具体的な授業改善の手立てを以下に示す。

重視したい項目	授業改善の手立て
本時に働かせるべき「見方・考え方」は明確であったか。	学習課題を明確にし、学習課題を念頭に置いた発問を重ねる中で、働かせるべき「見方・考え方」を教師と生徒で共通理解を図る
生徒に「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することは出来たか。	適切な「見方・考え方」で思考できるようにワークシートを構成する。協調学習や様々な発問を通じて、本時に働かせる「見方・考え方」に近づくように摺合せていく。
生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・口頭等）ことはできたか。	板書とICT活用の工夫で、生徒の思考の流れや見方などを「見える化」することを重視する。

#### 5 単元の目標と評価規準

##### (1) 単元の目標

- ・オセアニア州の地域的特色を大観し理解する。
- ・オセアニア州で顕在化している地球的課題が、地域的特色の影響を受けてどのように現れているかを理解する。
- ・オセアニア州の地球的課題の影響や要因、具体的な解決への道筋を、地域の広がりや地域内の結びつきに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・オセアニア州についてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を、主体的に追究しようとする態度を養う。

##### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オセアニア州の地域的特色を大観し理解している。</li> <li>・オセアニア州で顕在化している地球的課題が、地域的特色の影響を受けてどのように現れているかを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オセアニア州の地球的課題の影響や要因、具体的な解決への道筋を、地域の広がりや地域内の結びつきに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オセアニア州についてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を、主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

6 指導計画と評価計画（4時間扱い） ●「学習改善につなげる評価」○「評価に用いる評価」

次	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
第一次 課題の把握 （1時間）	<p>【ねらい】 オセアニア州の地域的特色を大観し、多文化社会の実現に向けて努力していることを理解する。地理的条件や歴史的背景、既習のヨーロッパ州と比較して、多種多様な人々がなぜ共生できているのか興味をもたせる。</p> <p>単元を貫く問い 「多様な人々が共存し、お互いの文化を尊重するために必要なことは何か？」</p>				
	<p>第1時の課題 「オセアニア州の自然環境や文化にはどのような特色があるのか」</p> <p>・自然環境、文化、歴史という視点でオセアニア州の地域的特色を大観する。</p>	● 知		●	<p>●単元を貫く問いを理解し、見通しを立てて課題を追究しようとしている。（ワークシート、学習課題解決シート）</p> <p>●オセアニア州の自然や文化の特色を理解している。（学習課題解決シート）</p>
第二次 課題の要因の考察 （2時間）	<p>【ねらい】 オセアニア州は他の地域とどのように結びついているかを、「経済的な結び付き」「人々の結び付き」という視点で考察させる。</p>				
	<p>第1時の課題 「オセアニア州は他の地域と経済的にどのように結び付いているのか」</p> <p>・輸出品（農産物・鉱産資源）と貿易相手国の変化について図表から読み取り、理解する。</p> <p>第2時の課題 「オセアニア州の人々は他の地域とどのように結び付いているのか」</p> <p>・歴史的な経緯に着目させ、オセアニア州と他の地域との結び付きの変化について考察する。特にオーストラリアでは移民政策の転換がどのようになされ、社会がどのように変化したのかを考察する。</p>	● 知	● 技	●	<p>●オセアニア州と他の地域との経済的な結び付きについて理解している。（学習課題解決シート）</p> <p>●オセアニア州の輸出品や貿易相手国の変化について読み取る技能を身に付けている。（ワークシート）</p> <p>●オセアニア州の人々が他の地域とどのように結び付いているかを理解している。（学習課題解決シート）</p> <p>●オーストラリアの移民政策の転換と社会の変化の因果関係について多面的・多角的に考察し、表現している（ワークシート）</p>
第三次 単元のまとめ （1時間）	<p>【ねらい】 オセアニア州の学習を振り返り、地理的条件、経済的な結び付き、人々の結び付きという視点で、特にオーストラリアにおける多様な人々が共存する社会（多文化社会）について考えさせる。さらに、これまでの学習をもとに、多文化社会の実現という地球的課題の解決に向けて必要なことを考えさせる。</p> <p>・新聞記事を読み取り、多文化社会の実現に向けた日本の社会の課題点を読み取り、その解決方法を考察し、プレゼン資料にまとめる。</p> <p>・単元を貫く問いに対する答えを学習課題解決シートに入力する。</p>			○	○多様な人々が共存し、お互いの文化を尊重するために必要なことを多面的・多角的に考察し表現している。（学習課題解決シート）

## 7 本時の学習指導（第4／4時）

### (1) 目標

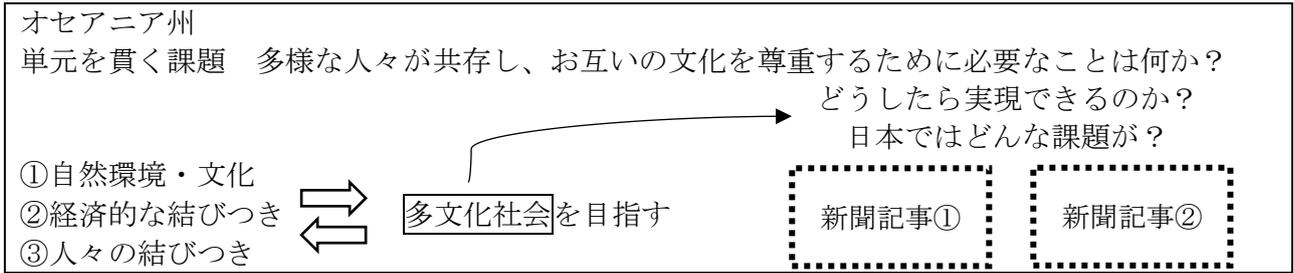
多様な人々が共存し、お互いの文化を尊重するために必要なことを多面的・多角的に考察し表現する。【思考・判断・表現】

### (2) 展開

過程 (時間)	学習活動 ・ 内容	・ 指導上の留意点 ◎評価 ☆アクティブ・ラーニング(AL)の視点	資料等
導入 (5分)	1 前時までの学習内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オセアニア州の地理的条件、経済的な結び付き、人々の結び付きという視点で、特にオーストラリアにおいて多文化社会がどのように築かれているかを確認する。</li> <li>☆オーストラリアにおける多文化社会を目指す動きは、地域にとどまらず地球的課題であることを確認する。(ALの視点1・2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スライド(パワーポイント)</li> </ul>
	2 本時の課題を把握する。		
<p>&lt;本時の課題&gt; 多様な人々が共存し、お互いの文化を尊重するために必要なことは何か？</p>			
展開 (35分)	<p>3 本時の課題を身近な生活や社会と結び付けて考える。</p> <p>(1) 新聞記事を読む。</p> <p>(2) 新聞記事についてグループで協議する。(4人1組の社会科班)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題点の整理</li> <li>・ 課題解決への道筋を議論する</li> <li>・ プレゼン資料の作成</li> </ul> <p>(3) グループ協議の内容を全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何が問題になっているかを整理しながら読むように指示を出す。(問題・課題だと思ふ箇所にラインマーカーを引かせる。)</li> <li>・ 問題点を多面的・多角的に挙げさせ、その後それぞれの課題点の解決策を話し合わせる。改善策については多面的・多角的な立場からの改善策を考えさせる。その際に、協議が上手く進まないグループにはオセアニア州(特にオーストラリア)で学習したことをヒントにするように助言する。</li> <li>・ グループで議論した内容はロイロノートに記録させる。カードを連結させて、そのままプレゼン資料にさせる。カードは文字・写真等形式を問わない。</li> <li>☆ロイロノートで画面共有して発表させる。聞き手は自分のパソコン画面を見て発表を聞く。(ALの視点3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新聞記事①(ベトナムの技能実習生の現状について報じた新聞記事)</li> <li>・ 新聞記事②(日本の移民政策について報じた新聞記事)</li> <li>・ Chromebook</li> <li>・ ロイロノート</li> <li>・ 新聞記事③(多文化共生についてのコラム)</li> </ul>
	4 多文化社会の実現は「地球的課題」であることを改めて確認する。		

	<p>5 単元を貫く問いに対する自分の考えをまとめる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Chromebook</li> <li>・ Google classroom</li> <li>・ Google スプレッドシート</li> </ul>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ (10分)</p>	<p>&lt;単元を貫く問い&gt; 多様な人々が共存し、お互いの文化を尊重するために必要なことは何か？</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Google スプレッドシートの「学習課題解決シート」に単元を貫く問いに対する答えを入力させる。</li> <li>☆教師の画面上で生徒の入力内容は随時チェックできるため、随時生徒を評価し、努力を要する生徒を発見し次第、下記の手立てに従って支援する。 (ALの視点5)</li> <li>◎多様な人々が共存し、お互いの文化を尊重するために必要なことを多面的・多角的に考察し表現している。 【思考・判断・表現】</li> </ul>		
	<p style="text-align: center;">&lt;努力を要する生徒への支援の手立て&gt;</p> <p><b>B:</b> 新聞記事を読んで考えたこと、班員と議論して考えたことも踏まえ、オセアニア州（オーストラリア）から広がる地球的課題であることを意識させる。自分事として考えさせる。</p> <p><b>C:</b> 授業で学習したオセアニア州（オーストラリア）における課題点とその解決策についてももう一度確認する。どのように多文化社会を目指していたかを確認する。</p> <p>&lt;Aへの発展的な課題&gt;</p> <p>多様な人々とはどのような人々を想定できるかをより広く考えさせる。(宗教・民族だけでなく、障害者、LGBT など)</p>		<p style="text-align: center;">&lt;評価基準&gt;</p> <p><b>A:</b> オセアニア州（オーストラリア）から発展させて地球的課題として捉え、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p><b>B:</b> オセアニア州（オーストラリア）における課題とその解決策についての理解をもとに考察し、表現している。</p> <p><b>C:</b> 学習したことではなく、自分の意見や感想、一般論で考察し、表現している。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時で終わらなかった生徒については、自宅で続きを記入することを認める。</li> <li>・ 授業という場【同期】でなく各家庭【非同期】でもできることを確認し、だからこそ妥協せずに考えをしっかりとめるように伝える。</li> </ul>			

### (3) 板書案



## 8 資料

### (1) 戸田市アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

このルーブリックに基づいて、アクティブ・ラーニングの視点で授業を構成する。授業実施後に振り返って授業改善に生かすために活用する。

### アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの視点から、**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な5つの視点を**指導用ルーブリック**として示した。  
 視点1と視点5は、目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**と捉える。

- 1 児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。**  
**【目指すべき目標・評価規準の設定等】**

  - 指導計画に基づき、適切な目標（資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できたか。
  - 本時の目標に正対する評価規準・評価方法が設定できたか。
  - 児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか。（学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など）
- 2 児童生徒が自分の考えを表現することができていたか。**  
**【主に主体的な学びの視点】**

  - 本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。（※1）
  - 自分の考えを表現することができるように、（主につまずいている児童生徒への）支援方法を準備し、実行することができたか。
  - 自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。
  - 学習活動は、目標の実現につながっていたか。
- 3 児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。**  
**【主に対話的な学びの視点】**

  - 児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）は設定できたか。
  - 児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具（タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・具体物等）を工夫し用いていたか。
  - 目標の実現につながるよう児童生徒の考えを可視化（板書、ICT等を使って示すこと）できたか。（※2）
- 4 児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。**  
**【主に深い学びの視点】**

  - 児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
  - 児童生徒に「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
  - 児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・口頭等）ことはできたか。
- 5 児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。**  
**【学びの評価・振り返り】**

  - 評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する（キャッチ&レスポンスする）ことができたか。
  - 目標に準拠した指導と評価となるよう、学習の状況を適切に評価することができたか。
  - 児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか。（※3）

※1～3は、令和元年度達成率が低かった事項である。※1と※3は授業の根幹であるため、見直しと振り返りの時間を必ず設定することが不可欠である。※2は児童生徒が考えた、話した結果をアウトプットし、考えを再構築することで深い学びにつなげる手立てである。

R O 1 達成率	※1 小 88%、中 67%	※2 小 54%、中 34%	※3 小 63%、中 44%
R O 2 達成率	※1 小 69%、中 66%	※2 小 57%、中 56%	※3 小 45%、中 52%
R O 3 目標値	※1 小中ともに 90%	※2 小中ともに 60%	※3 小中ともに 70%

R O 1、R O 2 達成率の数値は、学校訪問で先生が自分の授業を評価したものである。

(2) ワークシート

社会科ワークシート【地理的分野】(21)「オセアニア州④(多文化社会実現に向けて)」

**世界の諸地域(この順番で学習します!)**

(1) ヨーロッパ州	(2) オセアニア州	(3) アフリカ州
(4) アジア州	(5) 北アメリカ州	(6) 南アメリカ州

**「持続可能な社会」の実現に向けて考えたいテーマ**



**単元をつらぬく問い ~オセアニア州編~**

ヨーロッパ系の人々が沢山住んでいるイメージだけど  
そんなこともなさそうなんだよな…  
色々な国と関わってそうだけど…

**多様な人々が共存し、お互いの文化を尊重するために必要なことは何か?**

小单元	①自然環境・文化	②経済的な結びつき	③人々の結びつき
学習課題	どのような自然環境や文化が根付いているのか?	他の地域と経済的にどのように結びついているのだろうか?	人々は他の地域とどのように結びついているのだろうか?
キーワード	自然環境(大陸・島・海) 気候 先住民	輸出品(農産物・鉱産資源) 貿易相手国の変化 観光資源	植民地 白豪主義 移民 多文化社会

**多文化社会をどう作る!?(新聞記事から日本について考えてみよう!)**

<記事の要点を箇条書きでメモしてみよう!>

「多文化社会」を目指す上で日本の課題は?		どのように解決できる?	
国(政府など)	国民	国(政府など)	国民

(3) 学習課題解決シート

単元を見通して学び、振り返らせるために使用している学習カードである。Google スプレッドシートで生徒に配布し、小單元ごとにまとめを積み重ね、単元末に単元を貫く課題を振り返ることと、見通しと振り返りを確実に進ませている。

(下記は「ヨーロッパ州」において生徒が作成した学習課題解決シートである)

## 社会の窓(学習カード～単元と単元をつなぐ!～)

1 年 組 番 氏 名

大單元 世界の諸地域

大單元を貫く学習課題

持続可能な社会を作るために、世界にはどのような解決しなければならない課題があるのだろうか？

中單元 ヨーロッパ州

中單元を貫く学習課題

国を超えて協力するようになり、どのような社会に変わったのだろうか？

小單元

1	單元名	どんな地域？
	学習課題	ヨーロッパはどのような地域なのだろうか？
	学習課題に対する答え	ヨーロッパは、緯度が高いが温暖で、様々な民族の人が暮らしている。そして、酸性雨など様々な環境問題がある。そこで、EUヨーロッパ連合を作り、SDGs等の共通の取り組みを協力して行っている地域である。

2	單元名	ヨーロッパ統合
	学習課題	なぜヨーロッパは統合したのだろうか？
	学習課題に対する答え	統合をすると、お互いの国同士で協力するため戦争が起こらず、協力したことによって、人口が増えたり、GDPや輸出額がふえるため、ヨーロッパ全体が発展し、アメリカやソ連に対抗することができるようになるから。

3	單元名	統合による課題
	学習課題	統合は良い結果を招いたのか？
	学習課題に対する答え	EUによるヨーロッパ統合では、拠出金が多いことや移民の増加など、不満を持つイギリスなどの国がある一方、受取金が多いことや発展している国への移住など、良い思いまでできるクロアチアなどの国がある。つまり、ヨーロッパ統合は良い結果を招いた部分もあるが、まだ課題点も残されている。そして、経済格差などの課題は、SDGsにも関係があるので、早急に解決策を出さなければならない。

4	單元名	
	学習課題	
	学習課題に対する答え	

5	單元名	
	学習課題	
	学習課題に対する答え	

中單元を貫く学習課題の答え

国を超えて協力するようになったため、様々な民族が住んでいても、戦争が起こらなくなった。そして、統合したことにより、どの国もより発展していき、アメリカなどの大國に対抗できるようになった。さらに、共通の取り組みとして、持続可能な社会を目指すことによりそれぞれの国が協力していく姿勢がより見られるようになった。つまり、国を超えて協力するようになり、より国同士の関わりが深くなり、どの国もさらに発展していけるようになった。しかし、統合による経済格差などの課題も見つかり、それは、2030年までに解決すべき目標をまとめてある、SDGsにも関係があるので、早急に解決策を見出し、いくことが重要になっている。

# 社会の窓(学習カード～単元と単元をつなぐ!～)

1年組 番氏名

大単元 世界の諸地域

大単元を貫く学習課題

持続可能な社会を作るために、世界にはどのような解決しなければならない課題があるのだろうか？

中単元 ヨーロッパ州

中単元を貫く学習課題

国を超えて協力するようになり、どのような社会に変わったのだろうか？

小単元

1 単元名 どんな地域？

学習課題 ヨーロッパはどのような地域なのだろうか？

1 学習課題に対する答え 日本より緯度が高いけれど、偏西風と北大西洋海流があるため比較的温暖。ゲルマン系・ラテン系・スラブ系とありプロテスタント・カトリック・正教会と3つの文化がある。ヨーロッパは昔、アジアとアフリカを植民地にしてきたため、いろいろな民族がいる。ヨーロッパは他の国と比べ、環境問題やSDGsへの意識が高く、あまりマイカーを使わずに自転車やバスでの移動が多い地域。

2 単元名 ヨーロッパ統合

学習課題 なぜヨーロッパは統合したのだろうか？

2 学習課題に対する答え 20世紀以降2つの大国(ソ連・アメリカ)に対抗できなくなった。けれど、統合することにより2つに大国に対抗できるようになり、二度とヨーロッパで戦争起こさなくするため、EU(ヨーロッパ連合)が作られた。

3 単元名 統合による課題

学習課題 統合は良い結果を招いたのか？

3 学習課題に対する答え クロアチアやスペインのように貧しい国は補助金をもらい嬉しい思いをしたと思うけど、ドイツやイギリスのように裕福な国は拠出金をいっぱい出さなきゃいけないし給料が多いため移民が集まり、国民は仕事奪われてしまうため不満を持つてしまう。

4 単元名

学習課題

4 学習課題に対する答え

5 単元名

学習課題

5 学習課題に対する答え

中単元を貫く学習課題の答え

ヨーロッパは日本より緯度が高いけれど偏西風と北大西洋海流が流れているため比較的温暖。ゲルマン系・ラテン系・スラブ系とある。昔、2つの大国(アメリカ・ソ連)が力を握りどの国も対抗できなくなってしまった。しかし、1967年にヨーロッパ共同体(EC)がつくられ、1993年にはヨーロッパ連合(EU)ができた。統合することにより、ヨーロッパ内で戦争が起こらなくなり、ヨーロッパ共通通貨『ユーロ』がつくられた。しかし、EUに不満を持つ国も現れ2020年1月イギリスがEUを脱退した。